JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE

## 都市環境デザイン会議 北陸ブロック

# 北陸ブロックニュース

2019. Dec

発行:都市環境デザイン会議 北陸ブロック事務局

#### 都市環境デザイン会議 in 富山 2019

日 時:2019年11月23日(土・祝)

会 場:サンシップとやま研修室 501 (富山県富山市)

参加者:小見直樹、荘司洋文、稲葉実、島津勝弘、 大丸英博、武山良三、柳原恭順、浅井健治、

上坂達朗、北川真理、木谷弘司、小間井孝吉、 島由治、鍔隆弘、徳本修一、道地慶子、 新田川貴之、水野一郎、山岸敬広、埒正浩、 池田保裕、内村雄二、玉森慶三、土井直紀、 中澤俊(会員25名)一般5名 計30名

#### プログラム:

◎基調講演

「河川による景観形成と人々の暮らし」 安江 健一氏(富山大学都市デザイン学部 地球システム科学科)

◎パネルディスカッション

コーディネーター

武山 良三氏(富山大学理事·JUDI会員) パネリスト

荘司 洋文氏 ((株)キタック技術第2部技術役 ・JUDI 会員)

小川 大輝氏 (富山市都市計画課主事) 上坂 達朗氏 ((株)東洋設計技術センター 副センター長 ・JUDI 会員)

池田 保裕氏 ((株)ワカサコンサル福井支店長 ・JUDI 会員)

フォーラム「川がつくる北陸のまち~都市と河川 の関係性~」は、JUDI 北陸メンバー25 名に加え、 一般参加者5名、計30名にご参加いただきました。

まず、北陸ブロック幹事の鍔隆弘氏が、この前見 ていた映画で、水の流れに関する言葉と経済に関す る言葉の英単語がすごく似ていて、水の流れが都市 活動を盛んにしてきたということを背景に、言葉も

共有してきたのかと思って いた。今日は水という自然物 に、どういうふうに私たちが 付き合ってきたか、またこれ からどうやって付き合って いくかという内容でディス カッションできればよいと 挨拶され、司会・進行は柳原 恭順氏が務めました。



北陸ブロック幹事の 鍔隆弘氏

### ■ 基調講演(概要)

◆「河川による景観形成と人々の暮らし」

安江 健一氏

(富山大学都市デザイン学部地球システム科学科)

地形のできかたには、地下 の中から力が加わるような、 断層などで動くものと地表 面の侵食や堆積によるもの があります。侵食や堆積は外 的な作用、河川などでできま すし、大きな山ができるには 地球の中の力、内的な作用が 必要ということになります。基調講演する安江健一氏



地形の変化は、10万年くらいでは、隆起したり 沈降したり、侵食も堆積もしていますが、山ができ るような大きな変化はありません。

地震と活断層の関係はとても簡単で、地下にある 断層が動くと地震が発生することになります。活断 層というのは、その地震により地形に残ったものを いいます。地震を起こしても地形に残らなかったも のは活断層ではありません。

「極めて近き時代まで」の動きを研究・調査して、 活断層かどうかを認定していますが、200万年も 研究者がいうと「近き時代」になる。私たちの一生 を考えるとすごく長いのですが、地球の歴史46億 年を1年と考えると、200万年は12月31日の夜 の8時半くらい。この時間感覚はすごく難しいが、 自然現象を扱うときは、時間スケールが違うので、 注意しなければならないし、重要になってきます。

活断層の種類には、「横ずれ」と「縦ずれ」があ ります。地面が横にずれる断層が「横ずれ」で、断 層を境に反対側の岩盤が左にずれれば「左横ずれ」、 逆に右は「右横ずれ」になります。「縦ずれ」にも 2種類あって、のし上がるような「逆断層」と、滑 り落ちるような「正断層」があります。

かなり昔はまっすぐの川も、何度も断層が横にず れて、1回のずれはせいぜい 1mから 5m くらいな のですが、何度もずれると、どんどん蓄積して川の 屈曲が大きくなっていきます。そうすると、現在は 屈曲している部分も、遠い将来は違う川と合流する こともあります。

日本の山はだいたい断層で高くなっていますが、 斜面に沿った上昇気流で雲ができて雨が降ります。 大雨が降る一つの原因は、山があるというのが結構 重要になっています。最近、線状降雨帯なども聞き ますが、あれも山を越えてずっと後を引っ張ってい くので、山の存在というのは雨にも気候にも大きく 影響しています。富山は急峻な川が多いということ で有名です。世界の川は距離が長く、標高が高くな るまでにかなりの距離がありますが、日本の川は、 日本自体が狭いので、すごく急峻になります。その 中でも特に富山にある黒部川や常願寺川、片貝川な どは、日本の中でもさらに急峻な川になっています。

扇状地というのは、扇状にできた地形です。洪水時には低い方に水路を変えるため、色々な場所に流れていくので、扇形になっていきます。扇状地がある場所というのは、昔そこは氾濫していたという証拠になります。富山は大半が扇状地でできていますので、過去に何度も水害があったというになります。

ジオパークというのは、ジオは地球・地質、パークは公園を当てはめています。「科学的に価値が高く景観としても美しい地質・地形や、それらによって育まれた動植物、文化を保護・保全しながら教育、観光、防災などに活用し、持続可能な開発を目指している地域」のことになります。ユネスコの正式事業で、世界ジオパークというのがありますが、日本にあるジオパークを見ると、世界ジオパークが 9地域あります。世界ジオパークにはなっていませんが44の日本ジオパークがあって、富山の立山黒部ジオパークは日本ジオパークの一つです。

ジオとエコと人との繋がりというのは、どこにでもあるということを感じています。富山のジオパークのエリアは、山から平野、平野から海へ、それを川が繋げているという地域です。その中にいろいろな素材が沢山あります。地形・地質の素材もありますが、そこに人々も住んでいて、いろいろな繋がりができています。

普段は、建築や道路で覆われて見えなくなっている地形ですが、その地形が都市景観の基盤となっています。地形の成り立ちを知ることで、都市景観の見方が変わり、景観のつくり方に役立つかもしれません。

#### パネルディスカッション





パネルディスカッションの様子

(武山氏) 都市の個性は何か?一番根本になるのは風土、地形、気候というものがあり、それをベースに都市の形ができていくのではないだろうか? ということで、風土や地学に関わる中で、逆に都市計画のことを考える機会はあるのですか。

(安江氏) 私らから見ると、ここはかなり危険な 所だということはわかりますし、そういうところを 上手く避けてまちをつくる、そうならないための対 策ということも十分できます。風土や地学と都市計 画は、事前に共有しながらやっていくのが重要だと 思います。

(武山氏) 都市と川というのは、表裏一体の関係にあると思います。その一方で、水の恵み VS 水の被害、洪水というのは数多く起きてきたわけです。それに伴い、堤防を作ったり水路の架け替えをしたり、ハード的なことも行われてきました。

一方で、我々が生活していく中で、景観的な視点 もあります。そのあたりはどう折り合いをつけてい けばよいでしょうか。

(池田氏) 安全重視と景観とのバランスはトレードオフの関係だと思いますが、やはり人の生活があり、基本は人だと思います。私はハードだけで対処できないということが、ハザードマップや避難計画につながってくる。ハードだけで守られるということはない、住民が意識を変えることも重要だと最近思うようになりました。今後、歴史やまちなみ形成などをわかった上で、ここは浸かりやすい所なんだと学ぶ、子どもの頃からの教育も大事だと思います。

(上坂氏) 大雨が降ると川に中州ができることがあります。そういう時、地域の方々は、早めに河川管理者に浚渫をお願いする、そういう意識はかなり高まってきているとは思います。地元の公民館の防災訓練などにおいても、常日頃から、浸水エリ



パネリストの上坂氏

アなので決して安心できませんよと言っています。 幸い安全度は高まっているので、大丈夫だろうとは 思いますが、絶対大丈夫だとは言い切れません。

(小川氏) 台風 19 号で関東に氾濫が起きた時に、堤防を整備しなくてはいけないという所で、景観が良くなくなるという地元と行政の合意形成が進まない、「景観」というフレーズが頻繁に出ている記事を見ました。防災、安全といった観点からの整



パネリストの小川氏

備というのも大事な部分だと思いますが、景観を守るということもすごく大事な部分である。それは 0か 100 かじゃなく、どこか共有できるポイントがあるのではないかとは思っています。僕も市役所で働いているので、そういうところも今後しっかりと見ていかなければいけないと感じるところです。

(荘司氏) 信濃川にやすら ぎ堤ができ始めた頃に、県外 の方が「新潟の人はもうちょ っと川に向いて生活しない とだめだ」というようなこと を言ったことに対して、県内 のおばさんが「新潟は川風、 特に冬が強いので、新潟県民 に、そっちに玄関を向けて家



パネリストの荘司氏

を建てるような馬鹿は居ません」と。そういうことだと思います。災害の話で言うと、日々の付き合い方が大事になる。それは決して川だけの話ではなく、建築基準法など法規とも絡めて、まち全体で頑張っていかなければならないと思います。

(武山氏) ソフトによる対策もしていかなければならないと思いますが、そもそも川に対しての関心が昔から比べると完全他人事みたいになってきている。川をもう一度見直して、それに対してどう付き合っていくかが問われていくと思います。そういう観点で取り組んでいることはありますか。

(小川氏) 松川やいたち川は、高水敷の幅があまりない。千曲川などは、常時の河川堤防の倍くらいの高水敷の幅があるのに溢れたのかと思うと、神通川も常願寺川も怖いと思います。いろいろ抱える課題は多いですが、まずはハザード防災マップの見直しを早急にやることにはなっています。自治会との連携を図り、慎重に進めていかなければいけないのではないかと思います。

(池田氏) 最近、川との付き合い方というのが非常に活発になってきているなという感じがしています。例えば、向こう岸とこっちの岸を結ぶ「毛矢の繰舟(くりふね)」の復活やカヌーで子どもの川との付き合い方を教えている団体もあります。川



パネリストの池田氏

床ならぬ桜床というのをつくる。それも行政が大々的にやるのではなく、地域の方が有志でやっている。また、ミズベリングといって、水辺でお酒を飲みましょうみたいなこともやっています。川の歴史を考えると、昔は生活の一部、物流に使われていた。私の子どもの頃は川には近寄るなと教えられ、近寄れなくなって川の怖さを知らなくなる。それをレクリエーション活動で復活させようということが足羽川では見られます。山や田園地域も同様で、杉ばかり植えられることで土砂災害が非常に多くなっている。広葉樹を混ぜてしっかり根がつくような樹木に変えていくとか、田の耕作放棄地も、住民のレクリエーションの活動の場として捉えて維持していくなど、今の時代にあった付き合い方をすることが結果的に総合治水につながる気がします。

(安江氏) 自然の時間軸と人間の時間軸は違います。私も山を持っていて、針葉樹ばかりを植林した場合に、鳥獣被害が出てしまった。本来ならば木の実がなる広葉樹があることで、鳥獣被害がないところに被害が出る。また、植林をすると直根を切ってしまい60~70年経って大木になった時に、台風が来ると倒れやすくなり、洪水の時に流れてしまうということもある。長い目で見て、まちづくりや川の周辺の環境も考えていく、時間軸を見ていくことが重要だと思います。

(武山氏) 日本人にとって川は本当に親し存在ではないかなと思います。美空ひばりさんの名曲「川の流れのように」は、明らかに人生を川に見立てています。川と自分自身がとても近しい存在であると

いう捉え方がまずはベースにある。そういう捉え方をできるような川との付き合い方を都市環境デザインとして皆さんで一緒に考えていく、提案していくというようなことにつながっていけば幸いだと思います。



コーディネーターの武山氏

#### ■ 交流会

会 場:海の神山の神本店(富山市総曲輪 1-1-13) 参加者:会員 22 名、一般 2 名 計 24 名

恒例の懇親会は、JUDI 北陸メンバー22 名と一般 参加者 2 名の参加により、富山の地元料理と地酒 を堪能し、大いに盛り上がりました。

稲葉さんに乾杯のご発声をいただき、恒例の一人 一言も行いました。二次会、三次会と会場を移し、 メンバー同士の親睦を深めました。









稲葉さんの乾杯。久しぶりに大丸先生や武山先生も参加です♪





二次会、三次会と。。。実に楽しそうです(笑)

#### ■エクスカーション

日 時:11月24日(日)9:00~12:30

参加者: 莊司洋文、稲葉実、鎌田康男、島津勝弘、 大丸英博、柳原恭順、上坂達朗、木谷弘司、 小間井孝吉、島由治、徳本修一、新田川貴之、 水野一郎、埒正浩、池田保裕、玉森慶三、 土井直紀、中澤俊(会員 18 名) 一般 2 名 計 20 名

2日目のエクスカーションは、滑川市に来ました。 北国街道沿いの宿場町を、ボランティアガイドのお 二人にご案内いただきました。 まず、滑川市役所の駐車場に集合し、①徳城寺、②櫟原(いちはら)神社、③松尾芭蕉「宿泊の地」記念碑、④国登録有形文化財「旧宮崎酒造」などを順番に見学しました。旧宮崎酒造は、シェアリング・カフェ「cafe うみいろ ぼんぼこさ」として活用され、大変賑わっていました。

昼食は、富山湾を一望できるほたるいかミュージ アムのレストランで、全国でも珍しいホタルイカ料 理を楽しんで、解散となりました。

















エクスカーションの様子

#### ●北陸ブロックの今後の活動予定

#### ◇都市環境デザイン会議in金沢

日 時:2020年春頃 会 場:石川県

#### ◇都市環境デザイン会議in福井

日 時:2020年秋頃 会 場:福井県

#### 【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック 幹 事●鍔 隆弘(金沢美術工芸大学教授) 事務局●埒 正浩・高永智恵(㈱日本海コンサルタント) TEL 076-243-8281/FAX 076-243-8309 E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ http://www.judi-hokuriku.gr.jp/ JUDI 北陸ブロック Facebook ページ http://www.facebook.com/judi.hokuriku